

# 第23回市民との意見交換会・報告書（城西地区）

開催地区：城西地区	開催日時：令和元年11月13日（水） 18時00分～20時00分
担当班：第3班（出席議員）戸川稔朗、斎藤基雄、渡部 認、横山 淳、高梨 浩、小畑 匠	（欠席議員） なし
開催場所：城西コミュニティセンター	
参加人数：男性12名、女性1名、合計13名（うち班外議員0名）（他自治体等傍聴者0名）	
<p>1. 議会報告、市政全般についての総括 ～特になし～</p> <p>2. 地区別テーマでの意見交換についての総括</p> <p>(1) 地区別テーマ 「高齢化に対応するまちづくり（公共交通網の充実、市営住宅の環境整備）」</p> <p>(2) テーマ設定の理由、背景 前回（5月開催）の意見交換会においては、テーマを「顔が見える地域づくり」と題し、城西地区において希薄となってきた隣近所の付き合いや、見守りについて意見交換を行った。今回は前回からの継続として、高齢化に伴う地域内の公共交通のあるべき姿や、地区内の市営住宅居住者の生活環境改善を目的として、地域内の現状確認をもとに、今後のあり方について市民の皆様と考えるきっかけづくりとなるような意見交換会にするため、このテーマ設定とした。</p> <p>(3) 主な地域課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・城西地区（特に駅西地区）は狭隘な道路が多い。高齢化による脚力の低下や運転免許証の返納の機運が高まっていることから、地域内交通の整備が喫緊の課題となっている。また、地区内市営住宅は老朽化しているが、高齢者の居住者が多く、かつ、空き家も増えていることから団地内のコミュニティ形成が難しくなっている。</li></ul> <p>【その他の主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・災害（水害）対策訓練の必要性 など</li></ul>	

○ 議会報告(定例会、政策討論会など)、市政全般(テーマ以外)について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの  
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	分類	番号	備考	※項目 キーワード
台風19号後、老人会で防災ガイドブックや防災マップを使って勉強会を行った。その結果、移動距離(遠い)や収容能力の点で避難場所や避難所が適切でないことが分かった。また、町内で検討できるように、共助でできる内容を具体的にしてもらいたい。	ご意見として伺う。	○	②		防災・安全
今回の対応で、区長から役員へ、役員から組長へ、組長から組員へ避難の要請を行った。市営住宅の1階の人を2階に上がるよう促したが、2階通路等が一時的避難場所となるよう、風よけなどの対応が必要だ。 また、死者が出た時の区長の責任など、後になってみると心配なことがまだ多く、区長として何をやればよいのか明確でない。	ご意見として伺う。	○	②		防災・安全 地域社会
当地区(鈴懸町)は水害対策を徹底して行うべきである。	ご意見として伺う。	○	②		防災・安全
避難所への距離や収容人数の関係から、水害が発生したときは、近くの民間施設と市が協定を結び避難所にすべきではないか。	ご意見として伺う。	○	②		防災・安全
用水路が崩れている。	現地を確認し、報告する。	○	③	後日調査し、事後報告する。 (事後処理報告書P6、7に記載)	側溝

○ 地区別テーマでの意見交換について

→高齢化に対応するまちづくり  
(公共交通網の整備、市営住宅の環境整備) について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの  
※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	分類	番号	備考
	市内バス路線の再編や、高齢者の運転免許証返納の機運が高まっていることから、生活に必要な移動手段の確保が極めて重要となっています。城西地区としての新たな移動手段の確保に向けた意見を伺いたい。			
桜町にはバス停がない。町内の道路も狭いため、社会福祉協議会のバスが町内から出られなくなった。選挙の投票所は材木町児童館でとても遠い。投票所へ行くバスが必要ではないか。	ご意見として伺う。	○	②	
路線編成の前に、各町内会から意見を聞き、町内会ごとにバスの必要性を調査すべきではないか。	ご意見として伺う。	○	②	
公共交通は1町内会単位でできるものではない。関係町内と合わせて共通課題として区長会等で話し合いたい。	ご意見として伺う。	○	②	
金川町・田園町のコミュニティバスの話は何度か聞いたが、肝心なのは、いくら費用がかかるのかなど、収支などの検討材料がほしい。	区長会長に後日資料を提供する。	○	②	
高齢化でバス停まで行けなくなっている。もっと身近に利用できるバス運行を考えたい。	ご意見として伺う。	○	②	
城西地区は狭い道が多いことから、ワゴン車より小型のタクシーの相乗りなどによる交通システムを構築すれば良いのではないか。	ご意見として伺う。	○	②	

○ 地区別テーマでの意見交換について

→高齢化に対応するまちづくり  
(公共交通網の整備、市営住宅の環境整備) について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの  
※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	分類	番号	備考
バスの年間フリーパスなどを市全体として対応してはどうか。	会津バスで免許返納に対応した事業を実施している。	○	①	
	城西地区の駅西地区には住吉向団地、材木町団地の2つの市営住宅がある。ともに老朽化が進み、市の計画によると個別改善、用途廃止などにより、空き家の増加と居住者の減少・高齢化が今後進んでいく。今後どのような住宅環境を地区として求めているのか伺いたい。			
材木町団地E棟は用途廃止となるが、住んでいる人をどうするのか。いつ取り壊すのか。	まだどの時期に解体をするのかは決まっていない。	○	①	
耐震性が問題であれば、空いている住宅への転居を促すべきではないか。災害前の事前の対応をすべきだ。	当局としては、転居を促しているようです。該当する方とのさらなる話し合いの進展を求めていく。	○	①	
銭湯がなくなってバス運行している。今後、入浴施設をつくと聞いているがどうなっているのか。	住宅内の施設を活用し入浴施設を設置する案もあるが、まだ、確定した話とはなっていない。	○	①	
入浴施設をつくるのと、バス送迎の費用を比較検討すべき。バス送迎の方が費用はかからないのではないか。	ご意見として伺う。	○	②	
住民(バス利用者)の声を聞き、どちらが良いか判断すべきではないか。	ご意見として伺う。	○	②	

○ 地区別テーマでの意見交換について


→高齢化に対応するまちづくり  
 (公共交通網の整備、市営住宅の環境整備) について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの  
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	分類	番号	備考
住吉向団地の木造空き家の火災が心配である。早く空き家の取り壊しをしてもらいたい。	防犯・防災の観点からも市の早い対応を求めている。	○	①	

## 市民との意見交換会・事後処理報告書

## 城西地区

件名	処理（対応）内容	備考
<p>1. 用水路について (P 2)</p> <p>次ページへつづく</p>	<p><b>【市民からの要望・質問】</b> 材木町2丁目地内、応湖川の一部（資材置き場、並びに可月亭庭園美術館東側水路）において用水路が崩れている。水路の土砂上げなども行っていないようであり水害が心配である。</p> <p><b>【事後処理結果】</b> ○これまでの経過 この河川は門田地区を起点として城西地区に至る農業用排水路（大川より取水）として整備・活用されているものである。城西地区においては、灌漑期間以外は生活排水通水のための水量を維持している状態となっている。また、城西地区においては、農地の減少により集落単位で行われていた河川の維持管理が行われていない状況であることから、草木等の繁茂がある状況である。</p> <p>○今回の対応 ・11月15日現地確認 現地確認をしたところ、水路西側民地の資材（ブロック）が水路にかかる部分に散乱している状態であり、かつ、一部水路石垣の崩落が見られた。水路東側民地については、擁壁により水路機能を維持している。流水量については、生活排水を通水する程度の水量であった。 ・11月18日市道路維持課へ市民要望を伝える 「石垣の崩落については、所有者が復旧するようお願いするところです。草木の除去についても、それぞれの河川・水路において、各町内の方々をお願いしているところです。」との回答を得た。</p>	<p>備考</p> 

## 市民との意見交換会・事後処理報告書

## 城西地区

件名	処理（対応）内容	備考
<p>1. 用水路について (つづき)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11月19日会津中央土地改良区への聞き取り 「この水路は上流部（門田地区）の灌漑期間以外は、下流域（城西地区）の生活排水の通水維持程度の水量を大川から取水し流水している。大雨の時は水門操作により流量を調整している。」とのことであった。</li> <li>○現状と今後の対応 この水路は、上流部において農業用施設として利用されているが、下流部においては、農地が無いことから生活排水路として利用されている実態がある。大雨時における水量は、大川からの取水を止めることから、水路の氾濫は考えにくい状況である。 一方、本水路の整備・存廃については、今後の利活用状況や、城西地区における雨水幹線の整備と合わせて考えるべきである。</li> </ul>	